

第一回（六月）定例会では、十四人の議員が市政について質問しました。

一般質問

議員名	主な質問項目	掲載頁
尾藤 正弘	沼津アルプスハイキングコース、雑がみリサイクルの推進	4
村木 豊	電子市役所の取組、地区センターの飲食利用	4
佐藤健一郎	準用河川氾濫による浸水災害リスク低減策	5
大草 満	子育て支援制度、地域防災対策	5
梶 泰久	火災ごみ、自己搬入、使用済み天ぷら油、ごみ集積場所	5
渡部一二実	対話型生成AIへの対応策、コード化点字ブロック利活用	5
小澤 隆	沼津駅周辺のデザイン、チャット GPT 活用方法	6
井原三千雄	土地利用と都市施設の見直し	6
小泉 宣子	本市における空き家対策、台風第2号による大雨被害	6
山下富美子	災害時の排水機場の管理運営体制、防災拠点庁舎の浸水課題	6
江本 浩二	新中間処理施設整備について	7
大場 豪文	原地区の水害対策とその対応	7
川口 慶	人口減少問題、結婚・出産・子育て支援、治水対策	7
高橋 秀子	本市の平和教育、海岸の環境保全	7

※議員名の下にQRコードを読み取ると、各議員の一般質問の録画映像が視聴できます。
※文面中の波線（~~~~）については、P.8の用語解説を御覧ください。

全ての質問項目(通告一覧)はこちら



X-Tech NUMAZUの取組内容は

問 X-Tech NUMAZUについて、①電子市役所の取組内容は、②産学官連携に対する考えは。

答 政策推進部長 / ①原則として手続方法に電子申請を追加することとし、令和四年度末で全手続の約四十四%を電子化している。また、キャッシュレス決済については、既に市県民税や水道・下水道料金、住民票等各種証明書に係る支払いに対応しているほか、支払いを伴う申請についても導入を検討している。さらに、令和五年度にはスマート窓口の導入を予定しており、電子市役所の実現

に向けて、おおむねロードマップに沿った進捗が図られていると考える。

②本プロジェクトは、市内の企業や教育機関をはじめとする多様な方々の参画により、幅広い分野で取組が進むものと考えている。そのため、協議会の活動支援を行うX-Tech NUMAZUサポーター制度を創設したほか、シンポジウム等への参加を促すなど、より多くの市民・事業者等の参画に向けた取組を行っている。今後も協議会において議論し、推進体制の強化及び人材育成を図っていく。

村木 豊



沼津アルプスハイキングコースの利活用に対する認識は

問 アドベンチャーツーリズムの視点における沼津アルプスハイキングコースの利活用に対する認識は。

答 市長 / アドベンチャーツーリズムは、インバウンド需要が回復傾向にある中で比較的長期間の滞在が見込まれることから、新たな観光コンテンツとして期待している。今後は、沼津アルプスをはじめとする本市が誇る観光資源を活用したアドベンチャーツーリズムについて、市内旅行会社や観光事業者等と連携し、観光商品の開発や外国人受入体制の整備を進めるなど、さらなる観光振

興を図っていく。

問 雑がみリサイクル推進に向けた取組は。

答 生活環境部長 / 各家庭で雑がみの分別が実践できるよう、ごみの分別・減量ガイドブックにおいて、雑がみの判別方法や簡単な排出方法を紹介しているほか、清掃プラントの施設見学やごみ分別説明会で周知を図るなど、様々な機会を捉え、雑がみリサイクル推進に取り組んでいる。



▲雑がみも貴重な資源

尾藤 正弘

